

## LPガスCP速報(2021年3月積)

### 1. 3月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **625**  $\text{ドル}$  (前月比+20  $\text{ドル}$ )

ブタン **595**  $\text{ドル}$  (前月比+10  $\text{ドル}$ )

#### ① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、原油市況が大幅に続騰し昨年1月以来の高値となるなか、LPガス需給は、中国が春節(旧正月)を迎えアジアの引き合いが弱まり、第2週にはパナマ運河の渋滞による遅延カーゴの到着見込みから、需給緩和感により下げる場面もみられた。第3週末には米テキサス州の寒波による需要の増加、荷役の遅れもあり極東CFR市況は、プロパン 625  $\text{ドル}$ 、ブタン 595  $\text{ドル}$ まで反騰した。FOB市況も原油市況の高騰に支えられ、堅調な需要と米国需給の逼迫懸念から、CP先物3月限も、第3週にはプロパンは600  $\text{ドル}$ を突破した。

全米プロパンは、輸出が堅調、需要は寒波の影響など過去最高水準に達し、全米プロパン在庫が大幅に減少、19日には前年比64%まで低下、5年平均レンジのボトムに(グラフ②)。に張り付いている。米モンベルビュープロパンスポット価格は原油市況の上昇と低水準在庫で続騰、一時525  $\text{ドル}$ に達し、月平均でも前月比15  $\text{ドル}$ 上昇の465  $\text{ドル/ト}$ どころ(グラフ①)。

フレート市況は、新型コロナ規制の影響、サウジの減産などで、中東での引き合い弱く大幅に続落、船舶供給過剰感から前月比平均で40  $\text{ドル}$ 以上の急落となった。

ナフサは原油価格に連動して大幅続騰し25日には610  $\text{ドル}$ に達した。月間平均は561  $\text{ドル}$ どころで、前月比49  $\text{ドル}$ の上昇。

バンカーオイルも原油市況に追随して上昇した。シンガポールIFO380は月間平均で前月比35  $\text{ドル}$ 高の382  $\text{ドル}$ どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同55  $\text{ドル}$ 上昇の516  $\text{ドル}$ どころ、両油種の格差は134  $\text{ドル}$ に拡大した。

2月CPは前年同月比プロパン195  $\text{ドル}$ 、ブタン115  $\text{ドル}$ それぞれ上昇。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算では、前月に比べプロパン11、ブタン13ポイントそれぞれ下落、前年同月比ではプロパン32ポイント、ブタン16ポイントそれぞれ高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	46.6	40.0	35.5		
CP先物指標:P	590	580	615		
CP先物指標:B	580	550	585		

#### ② 原油市況等

原油市況をみると、2月WTIは53  $\text{ドル}$ 台でスタート、25日には63.53  $\text{ドル}$ と2019年5月以来の高値を付けた。OPECプラスは3月もサウジが100万b/dの自主減産を実施することで、実質減産強化を図り、ワクチン接種が世界各国で進み、経済正常化、需要回復による過剰原油在庫の削減が見込まれている。米テキサス州を襲った記録的な寒波により大停電が発生、原油生産、製油所、パイプラインがストップし、エネルギー危機の様相、天然ガスも一時昨年9月以来の3  $\text{ドル}$ を突破した。米石油リグ稼働数は5月水準まで増加(前年比48%)したが、原油生産量は第3週に970万b/d、製油所稼働率は68.5%まで落ち込んだ。

一方、CFTC発表の大口投機玉の買越残高は16日時点では514千枚、前月末から10千枚増加、買い建玉は697千枚で前月末比21千枚増加となった。株価を中心として金融市場はリスク志向が強く、WTIの総取組高は251万枚と2018年6月以来の高水準。

なお、26日は長期金利の上昇で株価が急落、原油市況も前日までの急騰の反動、週・月末の利食い売りが先行、ドル高やOPECプラスの4月増産見通しで急反落となった。

○2月積みアラビアン・ライト(2月1~26日までの想定)は62.00  $\text{ドル}$ (前月比+6.92  $\text{ドル}$ )

熱量等価AL100% プロパン 508.34  $\text{ドル/ト}$  ブタン 501.36  $\text{ドル/ト}$

AL比 プロパン 122.95% ブタン 118.68%

\*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

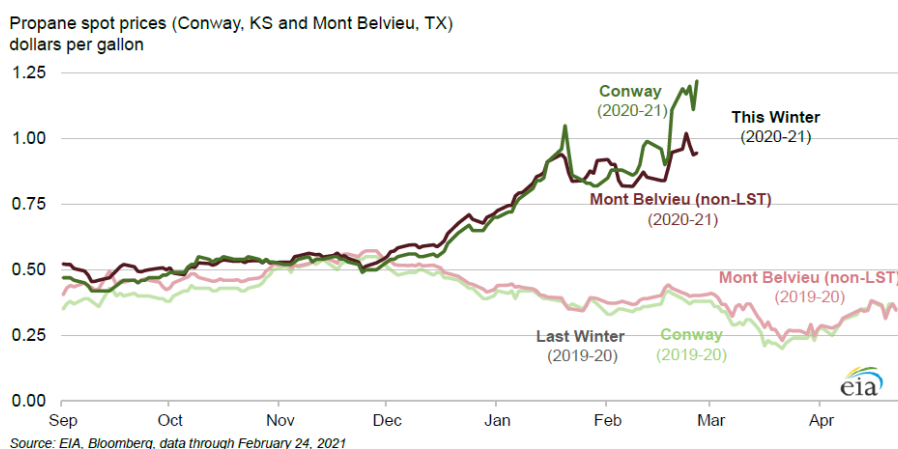
## 2. 2021年3月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CP	B円建CP	MB合成P	P前月比	B前月比	合成P前月比
①20日締め	105.79	70,500	67,800	69,200	+3,200	+2,600	+2,200
②末日締め	106.37	65,400	62,800	64,000	+4,900	+4,400	+4,200

\*TTS平均について、①が1月21日～2月20日、②2月1～28日まで。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。MB合成の比率は①、②ともにCP70%、MB30%で算定。①は中東・北米フレートを含むCFRコストを②はFOB（北米経費込み）コストを表示。

なお、上記MBは2月25日までの価格を基にEINで試算（465ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

### ①米MBプロパンスポット価格推移



### ②全米及びメキシコ湾岸（PADD 3）プロパン在庫推移

